

第7回日本ムードル・ムート

山浦 賢太郎 総合安全・情報管理技術分野

1. はじめに

Moodle (ムードル) とは、オープンソースの学習管理システム (LMS : Learning Management System) で、世界中の教育・研修機関で急激に採用を増やし続けている e ラーニングシステムである。日本ムードル協会は Moodle について、その教育への応用方法、プログラム開発、ユーザーの情報交換を目指す任意団体である。日本ムードル・ムートは、日本ムードル協会によって毎年開催されているワークショップを含めた会議であり、本年で第7回目を迎える。Moodle に関わる開発者・教員が、これまでの教育現場における活用事例、成果や今後の課題について発表や情報交換を行う場であり、Moodle 構築経験のない教員等も参加可能である。

今回、平成 27 年 2 月 20 日 (金) から 2 月 22 日 (日) の三日間に渡って京都産業大学において開催された日本ムードル・ムート (参加者 : 大学・高専・企業等から 230 名) に参加した。

2. 研修内容

表 1 は研修日程概要である。Workshops は、各時間に複数テーマが開催され、計 11 テーマ (初心者向け日本語ワークショップ 1 : はじめての Moodle ほか) が実施された。

Presentations は、21 日から開催され、学術・企業プレゼンテーション (一人当たり発表 45 分) が 43 件、ライトニング・トーク (一人当たり発表 10 分から 15 分程度) が 19 件、その他ショーケースが 2 件、基調講演が 3 件あった。併設された企業ブースでは Moodle 向けソフトやサービスの紹介が行われていた。ムードルの達人が Moodle の技術相談に応じる達人コーナーも設置されており、活発な情報交換が行われた。

表 1 Tentative start/end time of 2015 Moot

Feb. 20th	11:00 - 12:00	Registration
	12:00 - 18:00	Workshops
Feb. 21st	8:30 - 9:30	Registration
	9:30 - 18:00	Presentations
	18:00 - 20:00	Network Party
Feb. 22nd	9:00 - 16:00	Presentations

以下、1 日目から 3 日目までの研修内容について説明する。

1 日目はワークショップのみが開催され、Moodle を構築した経験のない教員等を対象とした演習講義、Moodle の中級・上級者向け演習講義があった。参加者は 4 教室、3 セッションに分かれて、それぞれ、自分に適した演習を選択して受講した。

今回は、これらのうち 3 つの講義に参加した。「初心者向け日本語ワークショップ 1 : はじめての Moodle」、「初心者向け日本語ワークショップ 2 : 一度覚えたらクセになる! データベースモジュール基本編~テンプレート BASICS~」、「中級・上級者向け日本語ワークショップ 3 : 数学 e ラーニングを体験しよう。」である。ここでは Moodle の初歩の確認を行い、データベースモジュールの使い方や数学 e ラーニングを体験した。特に数学 e ラーニング構築について、有用なフリーソフトウェア等を知ることができた。

2 日目は、7 つの講義室において、6 セッションが実施された。学術・企業プレゼンテーションは、Mahara (e ポートフォリオシステム、学生が日々の活動を記録し、自己の振り返りや教師からのフィードバックにて学習を深める用途) や Turnitin (レポートのコピー・アンド・ペースト (いわゆるコピー) を発見するツール)、Praat (英語発



図1 ベスト・オープン・コースウェア授賞式

図2 マーティン・ドゥーギアス氏の
基調講演

音指導の改善を目的とした音声解析ソフト) などの教育現場における事例紹介や成果発表が行われた。これらは、Moodle と連携させることで授業設計に活用し学生支援に役立てることができる。

授業における学生サポート体制の事例紹介は、「e-Learning 授業時間内におけるサポート体制の試み」などの発表が行われた。これは、TA(Teaching Assistant) を呼び出すヘルプボタンを Web 画面上に設置するなど、学生とのコミュニケーションをインタラクティブなチャットと対面で実現する試みである。

京都大学の上田准教授が、「学認連携 Moodle による情報倫理コースの運用」と題して学術・企業プレゼンテーションを行った。情報倫理コース「りんりん姫」は「高等教育機関の情報セキュリティ対策のためのサンプル規定集」に準拠している。多言語に対応しており、留学生へ適切な情報倫理教育を行うことを目的として開発された。学認連携 Moodle 講習サイトにおいて提供されており、全国の高専では教職員の情報倫理教育にも利用されている。

京都大学情報環境機構 IT 企画室梶田将司教授が基調講演「LMS の歴史と発展：コモディティ化した LMS が拓く新たな教育学習支援環境の現状と課題」を行った。

その他、図1に示す通り、優れたオープン・コースウェアを開発した開発者や、イノベーションを起こした開発者に対し、日本ムードル協会より表彰式が執り行われた。

3日目は2日目と同様に実施された。自動出欠プラグイン（授業の出欠を自動で取る）の紹介、

Moodle と連携するプログラミング学習環境(プログラムの改善点をポップアップメッセージ等で学習者に視覚的に表示する環境) の提案等である。

株式会社アットウェアが、「情報技術で変わる世界の教育現場」と題して学術・企業プレゼンテーションを行った。ここでは、クラウドコンピューティング技術についての紹介が行われ、コスト削減、サービス向上に高い将来性を感じた。

マリナ・グランシー女史（ムードル HQ 開発プロセス管理者）による基調講演が、「ムードルの開発にとって『オープンソース』を『コミュニティ主導』とはどんな意味を持つか」と題して行われた。この講演では、コミュニティ主導でオープンソースを開発することの意義について考えさせられた。

マーティン・ドゥーギアマス氏（ムードルの創始者兼主任開発者）による基調講演「フィードバック」が Skype を通して行われた。基調講演の様子を図2に示す。

3. 研修成果

大学や高専だけでなく企業など、Moodle の利用・開発に関わるあらゆる方々と交流を持つことができ、教育現場における Moodle の活用の現状や問題を知ることができた。特に「りんりん姫」など、e-Learning を用いた学習支援に有用な情報を詳細に得ることができた。

また参加企業による共同研究の呼びかけも行われていた。機会があれば積極的に関わり、今回得た知見を業務に役立てていきたい。